

48. <におい>

今年は戌年ですが、犬の嗅覚の鋭さは皆さんも知っているとおりで、そして人間はいろいろな面で犬を活用しています。有名なのはアルプスの山岳遭難救助隊で活躍中の訓練を受けた犬、最近では災害時における救助活動は皆さんもご存知だと思います。

一方、人間は犬ほどの嗅覚の鋭さは持っていませんが、においを感じそのにおいが人間の精神や生理、心理、身体の機能に影響を与えることは、古くから経験的に分かっており、アロマテラピー、森林浴といったものが広く知れわたっています。

私たちの生活の中では、なんらかのにおいが存在し、自分が無臭と思っても別の人にはにおいが感じることもあり、まったく無臭ということはまずありません。鼻で感じられる”におい”が不快なおいと快いにおいに分けると、その感じ方を”臭い”とか”匂い”という表現で区別します。快いにおいは「香り」「香料」といい、その感じ方を”匂い”と表現しています。

不快なおいは「臭気」といい、その感じ方を”臭い”と表現しています。「臭気」は一般に不快なおいの総称で、マスキング・中和・相殺作用などの必要性があるようなにおいを示します。更に不快なおいを強調するときは「悪臭」といい、生理的な面よりむしろ心理的に不快感を起こさせるにおいを示します。

バラの花の匂いは人間にとっては一般的に甘く誘われるような香りに感じますが、多くの鳥にとってはバラの香りは「棘があつて危ない」という危険信号に感じるということがいわれており、鳥にしてみればバラの香りは“臭い”になっているのでしょうか。

また、果物のドリアンは、「卵の腐ったにおい」とか「下水のにおい」とか形容されていますが、クリームチーズのような舌触りと濃厚な甘さで病み付きになる人もいます。

しかし、我々が関わっている下水道施設の中においては、一般的には“臭い”と表現するのが普通で、下水においては、長年下水道に携わっている人間にとってもやはり“臭い“であり、”匂い”と感じる人はいないのではないのでしょうか。

下水道施設から発生する臭気の主なものには硫化水素、アンモニア、硫化メチル、二硫化メチル、メチルメルカプタンなどであり悪臭防止法の特定悪臭物質となっていますので、市民に親しまれる下水道とするため、臭気を発生させないこと、発生を防げない場合にはその臭気の種類・濃度・量にあった経済的で効果的な臭気対策を実施する事が大切です。

< 稲毛 克俊 >

※No. 54号(2006/5/9)に掲載